

『賛美の力』 エペソ人への手紙1章1～3節 2015.8.9(主日礼拝説教より)

『私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。』

コリント人への手紙第二 1 章3節

エペソは、女神アルテミスを拝む、魔術や占いの町。そこで『忠実な聖徒』として戦い勝利する最大の力は『讚美』である。パウロは挨拶後の開口一番、父なる神をほめたたえた(3節)。あらゆる時、あらゆる状況で、神こそ讚美されるべきお方である！あなたは朝起きて、開口一番何を語る？「暑いなあ～」「しんどいなあ～」？それとも『主よ、今日も新しい一日を感謝します！』だろうか。祝福の神は、私たちに恵みと平安を常に注がれる！だから私たちは、その神の恵みと平和を信じて、常に讚美し感謝ができる！『讚美』とは、神がどのようなお方かを知り、そのことをほめたたえること！賛美するときに感謝が生まれる。◆ヨシャパテがモアブとアモンの大軍と戦う際、恐れて国をあげて必死に祈った時、預言者は告げた『この戦いは、神の戦いである(Ⅱ歴代誌 20:15)』と。するとヨシャパテは、軍隊の最前列に武器を持った兵士ではなく、楽器を持った聖歌隊に据えた。彼らが『主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで』と叫んだとき敵は総崩れ！讚美こそ、神の勝利をもたらす力である。◆ピリピ伝道に出かけたパウロとシラスは占いの霊にとりつかれた女奴隷を解放したことを恨まれ捕えられ、鞭打たれて牢へぶち込まれた。二人は傷が痛んで眠れぬ夜、『真夜中頃、神に祈りつつ、賛美を歌い、囚人たちが聞き入っていた(使徒 16:25)』。彼らが不平不満の代わりに神を賛美した時、大地震が起き、牢が開き、一瞬にして全員が解放！驚き自害しようとした看守とその家族全員がキリストを信じて洗礼を受けて、ピリピ教会の中心メンバーが誕生。賛美は最悪を最善に変える神の力。◆あなたは不平を吐き、神の恵みも平安も見失い、人生も神も呪う悪循環の人生？それとも祝福の神を信じて賛美し、恵みと平安で心満たされ、ますます神に感謝する良循環の人生だろうか？「人は幸せだから賛美するのではなく、賛美するから幸せになれる」のである！